

フランスのLRTプロジェクトにみる沿線開発の現状

大阪産業大学 塚本直幸, 吉川耕司, ペリー史子, ○波床正敏
和歌山工業高等専門学校 伊藤 雅

<http://www.osaka-sandai.ac.jp/ce/rt/> hatoko@ce.osaka-sandai.ac.jp

はじめに

わが国では、LRT は市街地活性化の切り札として期待されているが、海外では、郊外の開発路線として整備される例も少なくない。

仏国内では、一部を除いて路面電車がいったん全廃されたが、1980 年代以降、ナントやグルノーブルを皮切りに、近代的なLRTとして復活し始めており、2000 年における路線延長は 13 都市で計 203.4km、2009 年には 22 都市で 477.4km まで拡大している。LRT が中心市街地活性化に寄与することについては多数の報告があるが、沿線開発についてはLRT 路線に安定した需要をもたらすとともに、中心街の活性化をより確実にする効果があるものと考えられる。

本稿では、比較的近年に整備された仏国内 LRT について、沿線の開発状況などについて報告する。

付近を経て、旅客船の発着所近くの Euroméditerranée Gantès まで運行されている。現在、その先、約 1km にわたって延長工事中であるが、沿線には写真 2 のようにホテルや商業ビル等が建設中であり、再開発が進んでいる。



写真 2 マルセイユ T2 延伸と付近の開発

2. マルセイユのLRT 沿線(居住地・港湾)

港湾都市であるマルセイユ(Marseille)には 2 系統 10.8km の LRT が 2007 年に整備されている。T1 系統は中心街の地下駅を起点として東方向の丘陵地帯に伸び、沿線の住宅地(戸建ておよび集合住宅)から都心へのアクセス手段となっている。終点の Les Caillols 停留所は郊外型のショッピングセンターに隣接している。写真 1 は T1 系統 Ste - Thérèse 停留所付近の集合住宅である。

また、T2 系統は中心街から観光地である旧港

3. モンペリエのLRT 沿線(居住地・商業地)

南仏の人口約 24 万人の都市であるモンペリエでは、2000 年に最初の LRT が整備され、現在は 2 系統 35.0km の LRT が運行されている。

Tram 1 系統西側の沿線は大半が庭付き一戸建ての住宅地であり、終点の Mosson 付近には多数の集合住宅が立地している。Tram 1 系統の東側沿線も住宅地であるが、終点の Odysseum 周辺は映画館、アクアリウム、プラネタリウム、スケート場、遊戯施設、飲食・物販等の施設が並ぶ商業



写真 1 マルセイユ T1 沿線の集合住宅



写真 3 モンペリエ Tram1 終点の集合住宅

地となっている。



写真4 モンペリエ Tram1 終点の商業施設

4. ボルドーのLRT 沿線(大学・居住地)

2003年に初めて導入されたボルドーのLRTは、中心市街地において景観に配慮した架線レスの地表集電となっていることがよく知られている。現在は3系統44.3kmのLRTネットワークが形成されている。

このうち、B系統の南西側については、PeixottoからUNITECまで7停留所にわたって大学キャンパスの最寄り駅となっており、そのうち5つは大学構内にある(図1、写真5)。一方、C系統の北端は集合住宅の建ち並ぶ団地

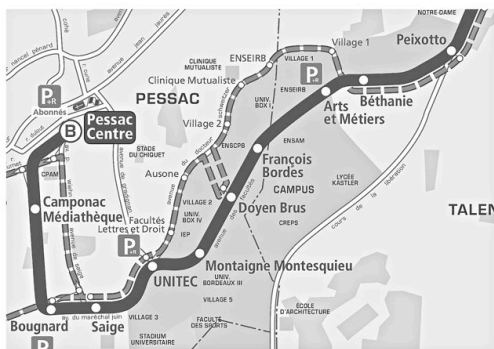


図1 ボルドー B 系統の南西端付近



写真5 大学構内を走るボルドーB系統

であるが、そこに至る Boutaut 通り沿いでは現在、沿線の開発が進行している最中である。



写真6 ボルドー C 系統沿いの開発

5. ルマンのLRT 沿線(大学・病院)

自動車レースで有名なルマンは仏西部に位置し、人口は14万人あまり、2007年に1系統のLRTが開業している。延長は15.4kmで南東端の終点は自動車レース場に位置し、P&Rが実施されている。北西端側は沿線に大規模な総合病院や大学が位置している(写真7=病院)。



写真7 ルマンLRT 沿いの病院

おわりに

近年整備された仏国内のLRTは、都心を通過するだけでなく、郊外の宅地や団地、あるいは大学や病院等のまとまった需要の発生する地区を結んでいることがわかった。実際にこれら路線に乗車すると、終点近くまで多数の乗客が乗っており、輸送密度の向上に寄与しているのではないかと考えられる。

わが国でLRTを整備する際にも、都心だけに目を向けるのではなく、郊外部の沿線の土地利用にも配慮し、輸送密度を向上させるような工夫が必要と考えられる。